「ふくい若者チャレンジクラブ　山形交流ミッション」報告書

第１　目　　的　　「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」を通じて、福井県とつながりがあり、若者の活動が盛んな山形県に、福井県の若者グループが出向き、山形県の若者グループとの交流を行うことにより、今後の活動の発展に資する。

第２　ね ら い　・山形県の若者グループと活動上の課題とその対応について議論し、今後の活動に活かす。
・同県内のまちづくりの先進事例を学び、自分たちの地域活性化の活動に活かす。
・食文化の相互紹介、福井の観光・特産品のＰＲを行う。
・民俗芸能の相互紹介を行う。

第３　期　　日　　平成２４年８月３日（金）～６日（月）

第４　関係機関　　山形県南陽市教育委員会社会教育課
山形県子育て推進部青少年・男女共同参画課
福井県総務部男女参画・県民活動課（若者チャレンジ支援室）

第５　参 加 者　　ふくい若者チャレンジクラブメンバー　１６人

第６　日程表

４　日 （土）	午前 ～ 午後	●　**福井と山形（南陽市）の若者で、一般向けのイベントを共同実施　　（南陽市中央公民館）** ・南陽市の若者グループによる活動発表 地元野菜を使って新たに研究開発したドーナツ販売 南陽市の魅力を PR する宣伝隊 子どもたちが参加できる工作コーナー ・福井の若者グループによる観光・特産品のＰＲ 恐竜博物館のＰＲ、特別展のＰＲ（恐竜のフィギュア展示や恐竜グッズ配布など） 福井梅のＰＲと梅の配布 福井の恐竜クイズ、方言クイズ、家事チャレンジ検定の実施 ・食文化の交流 福井と山形の若者が共同で山形県の郷土料理「芋煮」を調理、来場者への振舞い 福井発祥の「焼き鯖寿司」の来場者への振舞い
	午後	●　**福井と山形（南陽市）　青年交流・意見交換会　　（南陽市中央公民館）** ・福井と山形双方の若者グループ活動発表と意見交換会 ① お国自慢 ② 活動の紹介（活動内容、団体の概要、活動のきっかけ） ③ 事業運営上の悩みと工夫 〔宿泊〕
５　日 （日）	午前	●　**商店街視察とまちづくりのリーダーとの意見交換会　　（高畠町昭和縁結び通り商店街）** ・高畠町の昭和縁結び通り商店街の現地視察（昭和 30 年代の商店街を再現、平成 18 年に「がんばる商店街 77 選」（経済産業省）に選ばれる。） ・山形県委嘱の「まちづくりサポーター」でもある古川和夫氏（昭和縁結び通り振興会専務理事）との意見交換会
	午後	●　**山形県庁の若手職員グループとの意見交換会　　（山形市）** 【山形県】「城下町やまがた探検隊」等、地域活動している若者グループ ●　**福井と山形の民俗芸能の相互紹介（山形：花笠踊り、福井：やんしき踊り等）** ●　**花笠パレード参加（山形県庁花笠踊り愛好会に合流、福井県の若者参加ＰＲ）** 〔車中泊〕

第７　概要報告

◆第１日目　８月３日（金）

・１９：３０　結　　団　　式
・１９：４５　最終打ち合わせ
・２２：００　福井合同庁舎発

１　結　団　式　　場所：県庁２階中会議室

○「激励の言葉」　江端美喜子　県男女参画・県民活動課長

・　今回はふくい若者応援プロジェクトの一環として、県外に人脈を広げ、新たな視点を学んでもらおうと、山形県の若者との交流事業を企画した。今回交流をする山形県の若者と活動するうえでの悩みや課題についてよく意見交換をして、今後の活動に活かして欲しい。

・　福井県立恐竜博物館など、福井の観光地を大いにＰＲし、また、福井の食・文化もまたＰＲして欲しい。さらに、今回参加される方同士、この機会に親しくなっていただき、それぞれの活動に参加するなど、活動の幅を広げていただきたい。

○「決意表明」　　加藤　優翼　山形交流ミッション団長

・　今回の機会に、チームワークを発揮して、山形の皆さんに、福井の魅力をＰＲするとともに、この２日間の交流を通じて出合う方々から、多くを学び、体験してくる。

・　今回、山形と交流できる貴重な機会を作っていただいた皆様に感謝する。

○「団員紹介」

・　各団員の紹介を行った。

２　最終打合せ　　場所：県庁２階中会議室

団員を芋煮料理班、クイズ班、観光 PR 班にわけて、それぞれ打ち合わせを行った。

◆第２日目　８月４日（土）

６：００～　９：００	南陽市着、朝食、入浴、休憩
９：００～１０：３０	イベント準備
１０：３０～１４：００	共同イベント「夏休み！えくぼサマーフェスティバル」実施
１４；００～１５：００	片付け
１５：００～１７：３０	宿泊施設「むつみ荘」へ移動、入浴、準備
１８：００～１９：４０	南陽市と福井県の若者グループとの意見交換会
２０：００～２２：００	懇談会

○　南陽市の若者との共同イベント「夏休み！えくぼサマーフェスティバル」

・南陽市中央公民館（えくぼプラザ）の駐車場で開催、多くの親子連れでにぎわった。

・福井県からは、恐竜のクイズをしながら、日本最大の恐竜博物館である福井県恐竜博物館への来場を呼びかけた。また、夏場の疲労回復に有効な「福井梅」を配布し、「福井梅」を PR したほか、福井名物「焼き鯖寿司」の試食をしていただき、その PR を行った。さらに、福井の方言クイズ、福井県の位置あてクイズなどを実施し、福井の認知度をアップに努めた。

・山形県の若者グループは、地元の野菜（かぼちゃ）を使ったドーナツを作り販売したほか、ローカルヒーロー「アルカディオン」のショーなどを実施

・また、両県の若者が共同で、山形の郷土料理「芋煮」（醤油ベースの汁の中に牛肉と里芋が入っている料理）を調理し、来場者に振舞った。

恐竜クイズ

福井の方言クイズ

福井梅と焼き鯖寿司の PR

南陽市のご当地ヒーロー「アルカディオン」

両県の若者が共同で、山形名物「芋煮」を調理

イベント来場者に「芋煮」を振舞い

○　**南陽市の若者との意見交換会の概要　　福井県の若者１６人、南陽市の若者２０人**

それぞれの活動を紹介したのち、活動上の課題として、地域住民とのかかわり、他の団体とのつながり、自分たちの活動への人の取り込みなどについて意見交換を行った。

意見交換では、両県の若者とも、「自分達が楽しんで活動をしていること」が一番必要なことであり、かつ、「真剣に活動を継続していくこと」で、地域の方々の理解と協力が得られ、また、仲間を増やすことができるということを挙げていた。

また、今後はフェイスブックを活用し、日常的にそれぞれの活動を紹介し、交流を深めることとした。

詳細は、別紙の意見交換会の記録に記載

意見交換会の様子

塩田南陽市長のあいさつ

◆第３・４日目　８月５日（日）～６日（月）

９：００	宿泊施設「むつみ荘」発
９：３０～１１：００	高畠町昭和縁結び通り商店街の視察
１１：００～１２：００	まちづくりリーダーとの意見交換会
１４：００～１５：１５	山形県庁の若手職員５人と福井県の若者との意見交換会
１５：１５～１７：００	花笠踊りの準備と練習
１７：４５～１７：５０	吉村美栄子山形県知事を花笠パレード会場にて表敬訪問、記念撮影
１８：００～１９：００	花笠パレードに参加

その後、風呂、食事ののち、２１：４０に山形市を出発
翌８月６日（月）５：４５に福井合同庁舎駐車場に到着、解散

１　昭和縁結び通り商店街の視察

・　昭和縁結び通り商店街は、昭和３０年代の街づくりをテーマに、それぞれの店を昭和３０年代の資料館として作り換えていった商店街であり、平成１８年５月に中小企業庁が選定した「がんばる商店街７７選」のひとつである。

・　今回、山形県のまちづくりの先進事例を学びたいという福井の若者および福井県からの要請に、山形県庁および高畠町役場が応えてくれ、同商店街の視察が実現した。

・　だんご店のおばちゃん「はっちゃん」ら商店街の店主が、「東京オリンピック関連の品が展示されているそば店、昭和の映画ポスターが多数掲示されている珈琲店、古いブリキのおもちゃ等が展示されている店などを、ユーモアを交えながら山形弁で案内をしてくれた。「そば」「だんご」「つや姫のおにぎり」「おぼろ豆腐」などの食べ歩きをしながらというのが、この商店街のまち歩きのスタイルであった。

昭和の映画ポスターが多数掲示されている珈琲店

食べ歩きしながら商店街の方が案内するまち歩き

２　まちづくりリーダーとの意見交換会

・　高畠昭和縁結び通り振興会の専務理事であり、この商店街の活性化に尽力されてきた古川和夫さん（山形県のまちづくりサポーター）のお話を伺った。

・　古川さんからは、「地域づくりは、会議をしていても進まない。とにかく自らが動き、他人を巻き込み、地域が仲良く豊かになることが必要である。そして、地域づくりには、６大要素が必要。それは、やる気、知識、感性、経験、技、愛だ。その中でも一番大事なものはやる気

である。」などの話があった。その古川さんのお話のレジュメは、別紙のとおり。

古川和夫さんのお話

３　山形県庁の若手職員５人と福井県の若者との意見交換会

（１）山形県庁庁内報「ナナまぐ」編集委員の活動について報告（山形県庁　若手職員）

・同じ県庁に勤めながら、９割の職員を知らずに過ごしてしまう可能性があることは非常に残念なことと考えた。庁内の多くの職員の思いや素顔を知ることで、組織の垣根が低くなり、より強いネットワークや仕事のモチベーション向上につながることではないかと考え、若手職員有志で、庁内報を自主的に作成することにした。

（２）意見交換

・山形県庁の若手職員は、庁内報の自主発行、ランチミーティング、読書会などでつながりのあるメンバーである。メンバーの中には、「城下町やまがた探検隊」（山形市の城下町としてのまち歩きを歴史的な背景を学びながら楽しむ市民グループ）に参加している方などがいる。

・次の３つの班に分かれ、グループトーキングを実施

「いなかのどか班（田舎暮らし、棚田のある風景）」

「まちなか班（まちあるき、中心市街地活性化）」

「交流・にぎわい班（国際交流、ボーダレス活動、ボランティア）」

・各自、自身の活動内容、得意とする分野などを付箋に記入し、それを紙に貼り、それをもとに、参加者同士が質問をして、それぞれの活動の内容や関心事等について意見交換を行った。

両県の若者による意見交換

４　吉村美栄子山形県知事を花笠パレード会場にて表敬訪問、記念撮影

・　花笠パレードに参加される吉村山形県知事を、パレードが始まる前に、表敬訪問し、加藤優翼団長から、福井の特産品「越のルビー」をお渡しする。吉村知事からは、「花笠」の贈呈を受けた。

吉村山形県知事表敬、記念写真撮影

５　花笠パレードに参加

・　花笠パレードは、山形市の中心市街地約１．２ｋｍの直線コースを踊る。今回は、山形県庁花笠踊り愛好会に特別に加わり、「ふくい若者チャレンジクラブ」の上り旗を掲げながら、踊りに参加した。

花笠パレードに参加

踊りの記念撮影（文翔館［旧山形県庁］前にて）

第８　事前研修の概要

○第１回　平成２４年　７月９日(月)

○第２回　平成２４年７月１７日(火)

○第３回　平成２４年７月２５日(水)

・参加者自己紹介

・交流事業概要・日程等説明

・山形県での発表等について

（①南陽市イベント ②南陽市若者との意見交換 ③山形県若者との意見交換）

・花笠踊りの練習

場所：ＡＯＳＳＡ

第９　参加者の感想、意見（総括）

参加者の主な感想、意見は次のとおり（各参加者から提出された活動報告書をもとに作成）

１　南陽市の若者グループとのイベントの共同実施

・　福井について知識のない人たちに福井のことを知ってもらえることができた。イベントを運営している南陽市の方だけでなく、イベントに参加している方ともコミュニケーションが取れたことがよかった。

・　南陽市の若者グループが数多くあることに驚いた。また、それぞれのグループが孤立しているのではなく、お互いに助け合いながら活動していて、連携がうまく取れていた。

・　特に、南陽市の若者グループＨＯＰＥのローカルヒーロー「アルカディオン」については、地域の子どもたちに大人気で、地域に根付いていると感じた。

２　南陽市の若者グループとの意見交換会

・　今回、山形の方に福井をＰＲする機会があったが、自分自身がまだまだ福井のことを知らないことに気づいた。今後は、自分自身がしっかりと福井のことを知り、外部に発信していくことが必要だと感じた。

・　南陽市の若者グループ「米（こめ）部」の発表のなかで、「活動を続けていくなかで、周囲の人たちに認められると、それを必要としている人に声をかけてもらえるようになる」という発言があった。単発的ではなく長く続けていくことが大事だと感じた。

・　南陽市のそれぞれのグループがアイデア満載の活動をしていて参考になった。また、彼らは、行政の協力があったから自分達は活動できていると言っていた。行政とも積極的に関わっていき、自分たちの意思や考えを示していくことで、活動の幅と質をさらに良いものにしていけるのではないかと思った。

・　南陽市の若者グループは、情報の共有や発信が、インターネットやメディアに頼りすぎることなく、足やロコミで行っているとのことだった。それが、強い繋がりや、来場者の確保、人が人を呼ぶ仕組みに繋がっているのではないかと感じた。

・　南陽市の人たちは皆、明るく前向きだった。改めて、まちを明るくステキにしたいなら、まず人が明るくステキになること、人の活性化がまちの活性化に繋がると感じた。

・　南陽市では、他グループとの横のつながりができており、グループ相互の信頼関係ができている。一方、福井では、コンペなどで顔を合わせることがあるぐらいだ。これからはもっと意見交換の場を増やし、互いの企画をぶつけ合うことで自己満足の域を出て、多角的な考え方を取り入

れた、磨かれたものが出来上がるようになるのではないかと思う。

・　南陽市のプランコンテストでは、市民が直接審査できる仕組みになっていることに驚いた。

・　南陽市のグループから、行政からのサポートを受けるだけではなく、スポンサーを獲得し、物品の提供を受けているという話を聞き、素晴らしいと感じた。

３　商店街視察（高畠町昭和縁結び通り商店街）

・　商店街のコンセプト、売りが明確で統一感があった。特に、商店街の皆さんの接し方から、心から歓迎しているということが伝わってきた。（多数の意見）
「またこの場所に来たい」と思ってもらえる歓迎をすることが、その街を PR する、魅力を伝えられる一つの手段だと感じた。

・　これからの商店街は大型店舗との競争の中で、必然的にキャラクターやぬくもり、あるいはコミュニティ機能が求められているようになってきているが、この商店街はそういった時代の要請にうまくマッチしている。

・　福井では、街の開発中心に議論されているが、高畠町のようにレトロを意識した、昔の町の再発見をしたほうがよいのではないかと感じた。

４　山形県委嘱のまちづくりサポーター古川和夫さんとの意見交換会

・　まちづくりに欠かせないことは、人任せにせず、自ら汗をかくこと、自己満足で終えず、他人を巻き込みながら活動を行うことだという点が印象に残った。

・　イベントなど、何事でも行うときに大事なことは、レベル、規模、続ける期間の３つをしっかり考えなければならないということが印象に残った。今後のイベントの開催の参考にしたい。

・　自分も地域活性化の活動をしていて、印象に残ったことが２つある。一つは、自慢できるまちにするということである。二つ目は、地域住民のやる気である。いまの活動は、まちづくりに熱心な方が多いお陰で自分たちの活動ができているので、これは重要な要素である。

５　山形県庁の若手職員との意見交換会

・　山形県庁内で若手職員が自主的に発行しているマガジン「ナナまぐ」は、楽しく、普段見えづらい職員の思いや姿を伝えられるという意味で、素敵だと感じた。また、こういう活動を否定的にみる人もいることから、どのようにしたら認めてもらえるかを意識しながら活動しているという点も大変参考になった。

・　東北芸術工科大学の学生は、芸術専攻であるため、それを強みにして活動を広げていると聞いた。活動をする上で自分の強みや得意なことを持つことが必要だと教えられた。

・　山形県庁の職員が中心となって、「山形城下町のまち歩き」を実施していることを知ることができた。予約制をとっている我々の「まち歩き」ツアーと異なり、予約不要で当日参加が可能であることに驚いた。

・　その山形城下町のマップを作るため、自身でその地を歩いたり、地元の人の話を聞いたりして新たな発見ができたという。また、まち歩きイベントも、スタート地点を複数に設定し、選択肢を広げているという。

・　時間が足りなくて、テーマの深い話にたどり着くことができなかったのが残念だ。

６　全体的な感想、意見

・　山形県の若者の活動だけでなく、福井県のこと、若者の活動を知ることができ、非常に勉強になった。予定がぎっしりで大変な部分もあったが、それよりも楽しさが上回り、参加して非常によかった。福井では体験できないことも数多くあり、貴重な経験だった。

・　普段なかなか行くことのできない山形県で、地域のために力を入れている若者や街の方と触れ合い、多くの刺激を受けた。参加してよかった。

・　今回の交流事業を通じて、県内の他の団体の活動を知ることもできた。今後連携していけば、福井を盛り上げていくことができると感じた。若者同士の交流を深めていくことが必要である。

・　山形で出会った方からは、地元愛が伝わってきた。そして、その場所についての知識が十分にあり、セールスポイントを良く知っていた。私も自分自身で学び、地元の特色やセールスポイントを見つけていこうと思った。

・　私はいま特に活動しているわけではないが、今回の研修をきっかけに、より自分の住んでいる地域に興味をもち、何らかの活動に参加してみたいなと思った。また、続けることが大事だとわかったので、単発的ではなく、できる限り続けられる何かをしたいと考えている。

・　今回の事業を通じて、次の二点に気付いた

　一点目は、行動や人との付き合いに壁を作らず、タイムリーかつ広い視野で行動を起こすことが重要であり、できる限り他の団体やイベントに顔を出していくことが、よりよく楽しい生活に繋がる

　二点目は、活動が一方的にならず、地元の意見を聞きながら、ゆっくりと浸透させ、その地元の人々とともに行動していくことが、まちづくりにはとても大事なことである。

・　これまで実施してきたまちづくりの活動など様々なものに対しモチベーションが上がった。今回は、山形の若者、ふくい若者チャレンジクラブメンバー、自分のことなど、多くのことが学べた。人間関係が山形に広がった。

・　私自身、「地元には何もない」と思い、決め付けているところがあったが、山形県の若者のように、実際に歩いて、話して、学んで、ということをすれば、何か見つけられるかもしれないと考えが変わった。

　まずは自身が地元を深く知り、より好きになることができなければ、他の人にも伝えられない。そうして地元において何か活動に取り組んでいれば、きっとそれに共感する地元の人たちも興味を持ち協力していれることに繋がっていくと思うようになった。

・　若者が参加しやすいイベントを企画し、福井の若者がまちに繰り出していけるようなまちづくりをしていけたらと思う。

・　今回の交流事業を通じて、次の２点を学んだ。

　一つは、地域とつながるということ。地域の住民も一緒になって楽しむ、あるいは自分たちの活動を知ってもらえるようにする。そして、続けていく。そのことが積み重なり、多くの方の信頼を得ることができる。

　二つ目は、発言すること。頭で考えていても始まらない。まずは自分の考えを発言していくことで、だんだんと形になっていく。

（別紙）**南陽市の若者グループと福井県の若者グループとの意見交換会の結果概要**

日時：平成２４年８月４日（土）１８：００～１９：４０
場所：南陽市中央公民館（えくぼプラザ）
司会進行：南陽市若者グループ HOPE メンバー

１　それぞれのお国紹介

○福井県の紹介

・　福井県の観光地、東尋坊や永平寺、西山公園の紹介
・　へしこ、越前がに、コシヒカリ発祥の地、秋吉、越前おろしそば

○南陽市の紹介

・　南陽市は、非常に暑いところ。日本最高気温を記録したところ。
・　南陽市は、果物が豊富、お米もおいしい。

２　若者グループ活動報告

（１）福井県

○　学生団体 with

・ 鯖江市活性化プランコンテストを企画運営している。例としては、遣東使プラン（県内の大学生を東京都内のベンチャー企業に派遣するインターンシップ）、めがねギネスプラン、中国からの留学生を鯖江市に呼んで交流し中国で鯖江の情報発信をしてもらうプランなど。

○　だんねー座

・　陸前高田を中心に、月１、２度集まって復興支援している。写真の洗浄作業、福島の子どもたちのサマーキャンプの受け入れなどを実施している。

○　福井大学 EMP

・　福井駅前の活性化のために活動している。今年は、特に、子どもたちを対象に実施し、人づくりを目指している。

○　福井国際フェスティバル企画運営委員会

・　福井国際フェスティバルを企画運営している。また、新たなキャラクターをつくる予定だ。

○　越前町地域コミュニティ委員会

・　コミュニティセンターの運営に関わっている。祭りの企画運営、クリスマスイベント、ジャズライブなどもしている。子どもたちの参加を増やそうとしている。

（２）南陽市

○　南陽市の若者グループの活動の VTR を視聴

・　Am遊‘ｓ（あみゅーず）（遊びをテーマに親子のふれあいの場を提供し、親子の絆を深めてもらえるような活動に取り組んでいる）の活動を中心に紹介
・　プレゼン大会の模様も放映され、審査では、一般参加の方も審査員になっていることが特徴である。これは、プレゼン大会の二回目（平成 21 年度）からであり、エントリーした団体が納得できる評価とするためであるとのこと。
・　なお、他の南陽市の若者からは、始めは賞金ねらいで始めただけで、それほど乗り気ではなかったが、やっているうちに楽しくなって続いているという意見があった。

３　活動上の課題について意見交換

（１）活動の情報発信方法

○　学生団体 with

・　SNS を活用している。高齢者への情報の浸透が課題である。

○　かぼちゃプロジェクト（南陽市）

・　学校の先生などロコミを活用している。

（２）活動資金の確保方法

○　福井大学 EMP

・　１年生のとき、４大学の合同学生祭を企画した。パンフレットを作成し、掲載するお店には広告料をいただいた。拒否されたこともあったが、飲食店の中には募金箱を置いてくれたところもあった。そのほか、行政の支援金を獲得したり、大学研究費を獲得したりしている。

○　HOPE（南陽市）

・　最初は、自腹であった。今は、出演に対し謝金をいただくことがあり、それによって運営できている。そのほかに、県や南陽市の助成金を活用している。

（３）地域住民とのかかわり

○　福井国際フェスティバル企画運営委員会

・　自分の楽しいと感じているところを伝える。そうして、活動の理解者を増やす。

・　子どもを対象にすると、その親の方も巻き込むことができる。

○　米部（南陽市）

・　活動していることが認められると、そうした活動を必要とされる方から声をかけてもらえるようになる。活動を継続していくことが必要である。

（４）他の団体とのつながり

○　福井大学 EMP

・　まちづくり福井に相談したり、福井市の中心市街地振興課の職員に相談したりしている。地元の人とつながって、その人が他の人を紹介してくれる。人同士のつながりがさらにつながりを広げてくれる。つながりを広げるためには、自分たちの思いが重要である。

○　いぐね（南陽市）

他のグループとのつながりがさらにつながりを広げる。

（５）自分たちの活動への人の取り込み

○　だんね～座

・　いかに楽しそうにしていくかが大事。とりあえず動く。失敗してもいい。その結果をもとに活動を修正していく。一緒に笑いあえることをテーマにして活動している。

○　Am遊‘ｓ（南陽市）

・　メンバーは６人だが、イベント時にはこれだけのメンバーでは不足することがある。その際は、他のグループの協力をいただいている。地域のお菓子さんなど商店の方の協力をいただきながら進めることがある。

○　司会（南陽市）

・　私が活動していて感じたことは、自分たちが楽しくしていること、そして、真剣に活動をしていると、人を巻き込むことができるということである。